

○●横浜市医療安全メールマガジン＜第218号＞●○

～令和6年度第2回横浜市医療安全研修会アンケートにご協力ください！～

医療安全メルマガは、患者と医療機関のコミュニケーションギャップを埋めるヒントを発信中！

医療機関へお役立ち情報やお知らせも発信

■令和6年度第2回横浜市医療安全研修会のアンケート回答へのご協力のお願いについて（再掲）

メールマガジン212号（バックナンバーはこちら

→<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/iryo/anzenshien/iryoanzen/iryoanzenml.html>）

でお伝えした令和6年度第2回横浜市医療安全研修会「大規模地震を想定した医療機関における備え～能登半島地震被災地支援での体験を踏まえて～」につきまして、たくさんのお申込みありがとうございます。

お申込みいただいた方は、ぜひアンケート回答にご協力をお願いいたします。今後の研修会開催の参考にさせていただきます。

<https://shinsei.city.yokohama.lg.jp/cu/141003/ea/residents/procedures/apply/17d24cd6-b255-459d-828f-dcaacb7d3741/start>

上記URLからご回答いただけます。（回答締め切り：令和7年5月8日）

■メールマガジンアンケートはこちらから

<https://shinsei.city.yokohama.lg.jp/cu/141003/ea/residents/procedures/apply/3f49df6a-ed3b-4367-8f9d-54a92bba0ed8/start>

■バックナンバーはこちらから

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/iryo/anzenshien/iryoanzen/iryoanzenml.html>

■解除・変更：下記URLから、メールマガジンの解除又は変更手続きができます。

<http://ml.city.yokohama.lg.jp/mailman/listinfo/anzenchan>

■発行：横浜市医療安全支援センター（横浜市医療局健康安全部医療安全課）

Copyrights(C) 2008 City of yokohama. All rights reserved.

○●横浜市医療安全メールマガジン＜第219号＞●○  
～IC（インフォームド・コンセント）から共同意思決定へ～

---

医療安全メルマガは、患者と医療機関のコミュニケーションギャップを埋めるヒントを発信中！  
医療機関へお役立ち情報やお知らせも発信

---

患者が意思決定をする際にはIC（インフォームド・コンセント）が大切ということは皆さんご存じだと思います。より納得して意思決定していただくために、『共同意思決定（SDM：シェアード・ディシジョン・メイキング）』という手法がございます。荒神裕之先生（山梨大学医学部附属病院医療の質・安全管理部特任教授 医師GRM）が執筆された医学会新聞の記事（2024.07.09 医学界新聞（通常号）：第3563号）を基に、219号から221号にかけて詳細を解説していきますので参考にさせていただきますと幸いです。

患者の治療方針を決める際には、様々なアプローチがあります。従来、治療法に選択肢がある際には、可能な限り医療者が患者に選択肢・情報を十分提示した上で行う（ICインフォームド・コンセント）を行うことが一般的です。

改めて説明すると、

●IC（インフォームド・コンセント：説明と同意）

ICとは、医療において、患者が十分な情報を得た上で、自分の意思で同意することになります。具体的には、治療や手術の内容、リスク、代替案などを医師が説明し、患者が理解・納得した上で同意するプロセスを指します。

●事例から見るICの難しさ

こちらは、A病院での指導医と研修医のICにおける会話場面です。

指導医：「緊急入院した患者さんの維持透析治療の説明、どうだった？」

研修医：「やはり拒否されてしまって。1時間以上、血液透析の必要性や中止のリスクについて説明したのですが、理解してもらえませんでした。」

指導医：「患者さんへの説明には、ご家族や看護師にも同席してもらった？」

研修医：「ご家族は都合がつかなくて、看護師も別の入院対応で忙しそうだったので、患者さんと先輩の専攻医と3人で個室に移動して話しました。」

さて、こうした場面で活用できるのが共同意思決定です。現在、がん治療や透析治療など一部の医療分野では活用されはじめています。医学的な「疾病」として診る医師と「病いの経験」をしている患者との間には、大きな認識の隔たりが生じることがあります。この両者が統合的な理解に至るには、キャッチボールのような往復の模索のプロセスが欠かせません。この事例では、医師が2人で1時間以上も説明を続けた結果、「透析をすべき／したくない」という白か黒かの真っ向対立に陥ってしまい、かえって患者の態度を硬化させてしまった可能性があります。

次号では、SDMの意味についてお伝えします。

■メールマガジンアンケートはこちらから

<https://shinsei.city.yokohama.lg.jp/cu/141003/ea/residents/procedures/apply/3f49df6a-ed3b-4367-8f9d-54a92bba0ed8/start>

■バックナンバーはこちらから

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/iryo/anzenshien/iryoanzen/iryoanzenml.html>

■解除・変更：下記URLから、メールマガジンの解除又は変更手続きができます。

<http://ml.city.yokohama.lg.jp/mailman/listinfo/anzenchan>

■発行：横浜市医療安全支援センター（横浜市医療局健康安全部医療安全課）

Copyrights(C) 2008 City of yokohama. All rights reserved.

○●横浜市医療安全メールマガジン＜第220号＞●○  
～IC（インフォームド・コンセント）から共同意思決定へ～

---

医療安全メルマガは、患者と医療機関のコミュニケーションギャップを埋めるヒントを発信中！

医療機関へお役立ち情報やお知らせも発信

---

●共同意思決定（SDM：シェアード・ディシジョン・メイキング）とは？

共同意思決定とは、医療において患者と医療従事者が協力して治療方針を決定するプロセスのことを言います。

日本老年医学会によると、共同意思決定とは、本人・家族等と医療・ケア従事者等が、医療・ケアにおける意思決定の分岐点において、関係者全員でよく話し合い一緒に考えるコミュニケーションのプロセスを通して、皆が納得できる合意形成・意思決定をするという考え方です。

共同意思決定は、利用可能なすべての治療・ケアの選択肢それぞれのメリットとデメリットを比較検討して最善のものを選択していくものとなっています。

IC（インフォームド・コンセント）との大きな違いとしては、ICは患者が情報を得て同意すること、共同意思決定（SDM：シェアード・ディシジョン・メイキング）は患者と医療従事者がお互いの情報を共有して治療方針を決定することになります。これらにより、患者がより納得感を持って治療を受けることができると考えられます。

引用・参考）一般社団法人 日本老年医学会「ACP推進に関する提言」 2019.06.06一般社団法人 日本老年医学会

[https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/press\\_seminar/pdf/ACP\\_proposal.pdf](https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/press_seminar/pdf/ACP_proposal.pdf)

次号では、共同意思決定を活用した解決策を考えていきます。

■メールマガジンアンケートはこちらから

<https://shinsei.city.yokohama.lg.jp/cu/141003/ea/residents/procedures/apply/3f49df6a-ed3b-4367-8f9d-54a92bba0ed8/start>

■バックナンバーはこちらから

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/iryo/anzenshien/iryoanzen/iryoanzenml.html>

■解除・変更：下記URLから、メールマガジンの解除又は変更手続きができます。

<http://ml.city.yokohama.lg.jp/mailman/listinfo/anzenchan>

■発行：横浜市医療安全支援センター（横浜市医療局健康安全部医療安全課）

Copyrights(C) 2008 City of yokohama. All rights reserved.

○●横浜市医療安全メールマガジン＜第221号＞●○  
～IC（インフォームド・コンセント）から共同意思決定へ～

---

医療安全メルマガは、患者と医療機関のコミュニケーションギャップを埋めるヒントを発信中！  
医療機関へお役立ち情報やお知らせも発信

---

では、次のポイントを意識して、実際の共同意思決定をどのように進めればよいか見てみましょう。

●意思決定に患者や家族も含めた多職種チームで取り組む共同意思決定の視点を持とう！

- ・医師としての考えを押し付けるのではなく、相手がなぜそのように考えたのか潜在的な欲求に関心を向けること
- ・「なぜ透析を拒否するのか」と直接的に理由を尋ねると、患者側は医師から責められたように感じる可能性があるため、「何が透析を受けない判断に影響していますか」のようにWhyでなくWhatで、かつ直接的でなく間接的に尋ねること
- ・患者に尋ねる役割を看護師などの他の職種と分担すること
- ・家族の理解や協力を得る努力をしつつ、適度な距離感を作ること（家族の考えや思いが先走り、患者の考えや思いを抑圧してしまうことがある）

こういったプロセスを経ると、相互の対話を通じた認知の変容が各当事者に生じます。医師の側で「透析拒否患者」というレッテルが薄らぎ、説得という姿勢を手放すことができはじめて、患者の潜在的な欲求や願望の理解を基盤にした問題解消方策の模索につながっていきます。

●より詳細な内容を知りたい方はこちら

荒神 裕之 “レジデントのための患者安全エッセンス 第4回 多職種チームで患者・家族に上手に説明したい”

[https://www.igaku-shoin.co.jp/application/files/6617/2006/1730/3563\\_07.pdf](https://www.igaku-shoin.co.jp/application/files/6617/2006/1730/3563_07.pdf)

いかがだったでしょうか。こちらの記事では、より詳細な内容と、事例の研修医のその後についても記載がありますので、ぜひご覧ください。

■メールマガジンアンケートはこちらから

<https://shinsei.city.yokohama.lg.jp/cu/141003/ea/residents/procedures/apply/3f49df6a-ed3b-4367-8f9d-54a92bba0ed8/start>

■バックナンバーはこちらから

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/iryo/anzenshien/iryoanzen/iryoanzenml.html>

■解除・変更：下記URLから、メールマガジンの解除又は変更手続きができます。

<http://ml.city.yokohama.lg.jp/mailman/listinfo/anzenchan>

■発行：横浜市医療安全支援センター（横浜市医療局健康安全部医療安全課）

Copyrights(C) 2008 City of yokohama. All rights reserved.